

地球温暖化対策実施状況書

1 地球温暖化対策事業者の概要

地球温暖化対策事業者 (届出者)の名称	愛知時計電機株式会社		
地球温暖化対策事業者 (届出者)の住所	名古屋市熱田区千年一丁目2番70号		
工場等の名称	愛知時計電機株式会社 本社工場		
工場等の所在地	名古屋市熱田区千年一丁目2番70号		
業種	製造業		
業務部門における 建築物の主たる用途	工場		
建築物の所有形態	自社ビル等(自ら所有し自ら使用している建築物)		
事業の概要	量水器の製造		
計画期間	令和4年4月1日	～	令和7年3月31日

2 地球温暖化対策実施状況書の公表方法等

公表期間	令和6年7月23日			～	令和6年10月21日
公表方法		掲示 閲覧	(場所)		
		ホーム ページ	(HPアドレス)		
		冊子	(冊子名・ 入手方法)		
		その他	(その他詳細)		
公表に係る問合せ先					

3 地球温暖化対策の推進に関する方針及び推進体制

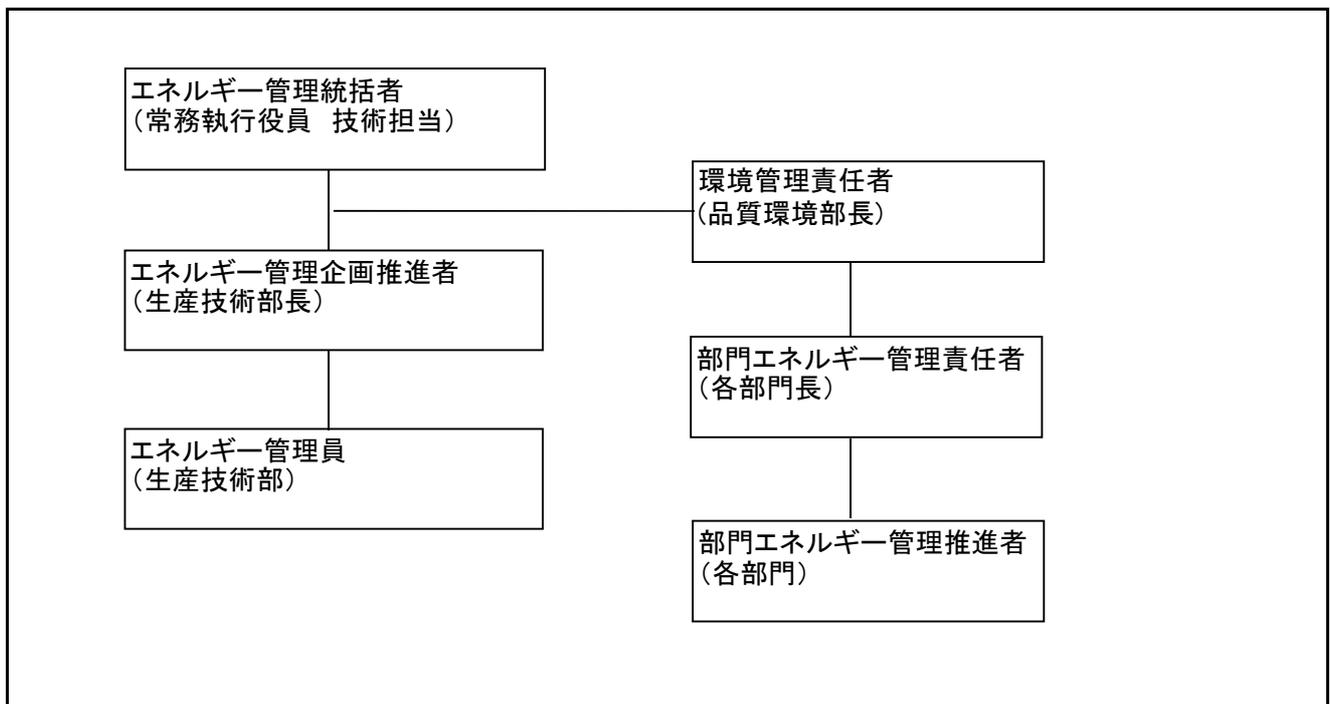
(1) 地球温暖化対策の推進に関する方針

基本的な考え方（以下、当社「環境方針」より抜粋）
「愛知時計電機株式会社は地球環境に配慮した企業活動に取り組み、環境と調和する製品と企業活動を通して社会に貢献します。」の環境理念に則り、持てる技術と創造力を生かし、社会の持続的発展に貢献します。
また、事業活動に係わる環境関連法規制等を順守するにとどまらず、地球環境の保全に配慮し、事業活動全体の「グリーン化」（あらゆる環境負荷の低減）に取り組みます。

行動指針

1. 製品のライフサイクルにおける、すべての段階において環境負荷の低減をはかります。
 - ・ 3R（リデュース・リユース・リサイクル）が配慮され、省エネ性・環境安全性の高い製品設計を推進します。
 - ・ 生産活動における環境負荷物質の排出抑制と省エネ・省資源に努めます。
 - ・ 生産性を高め、環境負荷低減につながるDXを積極的に導入していきます。
2. 環境関連の法律、条例及び地域との協定などを順守します。
3. 全従業員で環境に関する意識を高め、環境目標を設定して環境の保全に取り組み、常に見直し改善をはかります。
4. 製品含有化学物質管理を推進します。

(2) 地球温暖化対策の推進体制



4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 2 年度目（令和 5 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		704	t-CO ₂
（温室①を酸効除炭ガス換算）	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）		t-CO ₂
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	④メタン		t-CO ₂
	⑤一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑨三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
	温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）		704

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

(1) 温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	原単位排出量
------------------	--------

項目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績				
	令和 3 年度	t-CO ₂	令和 6 年度	t-CO ₂	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	t-CO ₂	
温室効果ガス総排出量		t-CO ₂		t-CO ₂					
削減率（対基準年度）				%	%	%	%	%	
温室効果ガスみなし総排出量					t-CO ₂	t-CO ₂	t-CO ₂	t-CO ₂	
削減率（対基準年度）					%	%	%	%	

項目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績				
	令和 3 年度	t-CO ₂ / kg	令和 6 年度	t-CO ₂ / kg	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	t-CO ₂ / kg	
原単位あたりの排出量	0.001556	t-CO ₂ / kg	0.001509	t-CO ₂ / kg	0.0003028	t-CO ₂ / kg	0.0003431	t-CO ₂ / kg	
削減率（対基準年度）			3.0	%	80.5	%	77.9	%	
原単位あたりのみなし排出量					t-CO ₂ / kg				
削減率（対基準年度）					%	%	%	%	

(2) 進捗状況に対する自己評価（目標の達成／非達成の理由）

CO2フリー電力の導入が温室効果ガス排出量削減に大きく寄与している。

備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。
 備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。
 備考3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。
 備考4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び再生可能エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。

指針第 2 号様式

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 2 年度目 (令和 5 年度) における利用の状況

導入年度	設備等の種類	概要 (規模、性能、発生エネルギー量等)

イ 上記のうち、他のものに供給した電力及び熱

区分	再生可能エネルギーの種類	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
電力		t-CO ₂
熱		t-CO ₂

(3) 環境価値 (クレジット等) の活用の状況

計画期間 2 年度目 (令和 5 年度) におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
		t-CO ₂

(4) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量 (みなしの削減量) の合計

t-CO ₂

(5) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

製品の小型化・軽量化による原材料使用量の低減 照明のLED化 省エネ基準、環境ラベルに適合したPC、OA機器の導入 有価物・廃棄物の分別の徹底、ペーパーレス化による廃棄物排出量の削減
--

(6) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

--